

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第5区分

【発行日】平成22年2月4日(2010.2.4)

【公表番号】特表2009-520132(P2009-520132A)

【公表日】平成21年5月21日(2009.5.21)

【年通号数】公開・登録公報2009-020

【出願番号】特願2008-545956(P2008-545956)

【国際特許分類】

A 41 D 13/00 (2006.01)

D 01 F 6/74 (2006.01)

D 03 D 15/12 (2006.01)

A 41 D 31/00 (2006.01)

【F I】

A 41 D 13/00 J

D 01 F 6/74 Z

D 03 D 15/12 Z

A 41 D 31/00 501H

A 41 D 31/00 502A

A 41 D 31/00 503F

【手続補正書】

【提出日】平成21年12月11日(2009.12.11)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

20d1/gを超える固有粘度を有する60~95重量部のポリピリドビスイミダゾール繊維と、

5~40重量部のポリベンゾビスオキサゾール繊維とを含んでなる外面シェル布帛を有する耐炎性被服。

【請求項2】

- a) 内側熱ライニング、
- b) 液体バリア、および
- c) 外面シェル布帛

を順番に含んでなり、外面シェル布帛が

20d1/gを超える固有粘度を有する60~95重量部のポリピリドビスイミダゾール繊維と、

5~40重量部のポリベンゾビスオキサゾール繊維とを含んでなる耐炎性被服。

【請求項3】

20d1/gを超える固有粘度を有する60~95重量部のポリピリドビスイミダゾール繊維と、

5~40重量部のポリベンゾビスオキサゾール繊維とを含んでなる外面シェル布帛を被服に組み込むことで、内側熱ライニング、液体バリア、および外面シェル布帛を有する耐炎性被服の製造方法。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0051

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0051】

本発明の特に好ましい実施態様を以下に示す。

[1]

20 d1 / g を超える固有粘度を有する 60 ~ 95 重量部のポリピリドビスイミダゾール繊維と、

5 ~ 40 重量部のポリベンゾビスオキサゾール繊維と

を含んでなる外面シェル布帛を有する耐炎性被服。

[2]

ポリピリドビスイミダゾール繊維が 25 d1 / g を超える固有粘度を有する [1] に記載の耐炎性被服。

[3]

ポリピリドビスイミダゾール繊維が 28 d1 / g を超える固有粘度を有する [1] に記載の耐炎性被服。

[4]

70 ~ 90 重量部のポリピリドビスイミダゾール繊維と、

10 ~ 30 重量部のポリベンゾビスオキサゾール繊維と

を含んでなる [1] に記載の耐炎性被服。

[5]

ポリピリドビスイミダゾールおよびポリベンゾビスオキサゾール繊維がステープルファイバーとして存在する [1] に記載の耐炎性被服。

[6]

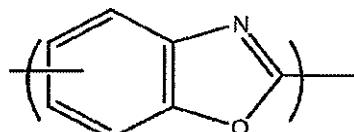
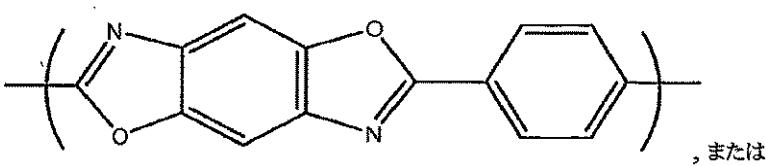
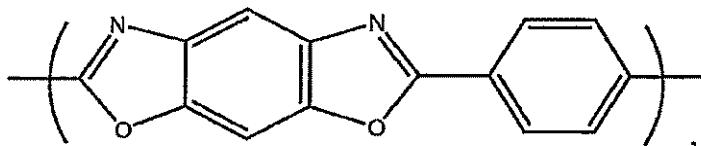
ポリピリドビスイミダゾールがポリ [2,6-ジイミダゾ [4,5-b:4,5-e]-ピリジニレン-1,4 (2,5-ジヒドロキシ)フェニレン] である、 [1] に記載の耐炎性被服。

[7]

ポリベンゾビスオキサゾールポリマーが、

式

【化1】



の単位を含んでなる [1] に記載の耐炎性被服。

[ 8 ]

a ) 60 ~ 95 重量部のポリピリドビスイミダゾール繊維と、  
b ) 5 ~ 40 重量部のポリベンゾビスオキサゾール繊維と  
を含んでなる [ 1 ] に記載の耐炎性被服。

[ 9 ]

ポリピリドビスイミダゾールおよびポリベンゾビスオキサゾール繊維が連続フィラメントとして存在する [ 1 ] に記載の耐炎性被服。

[ 10 ]

a ) 内側熱ライニング、  
b ) 液体バリア、および  
c ) 外面シェル布帛

を順番に含んでなり、外面シェル布帛が

20 d1 / g を超える固有粘度を有する 60 ~ 95 重量部のポリピリドビスイミダゾール繊維と、

5 ~ 40 重量部のポリベンゾビスオキサゾール繊維と  
を含んでなる耐炎性被服。

[ 11 ]

ポリピリドビスイミダゾール繊維が 25 d1 / g を超える固有粘度を有する [ 10 ] に記載の耐炎性被服。

[ 12 ]

ポリピリドビスイミダゾール繊維が 28 d1 / g を超える固有粘度を有する [ 10 ] に記載の耐炎性被服。

[ 13 ]

外面シェル布帛が、

70 ~ 90 重量部のポリピリドビスイミダゾール繊維と、

10 ~ 30 重量部のポリベンゾビスオキサゾール繊維と

を含んでなる [ 10 ] に記載の耐炎性被服。

[ 14 ]

ポリピリドビスイミダゾールおよびポリベンゾビスオキサゾール繊維がステープルファイバーとして存在する [ 10 ] に記載の耐炎性被服。

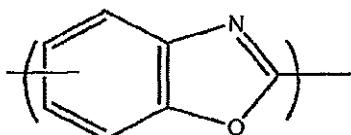
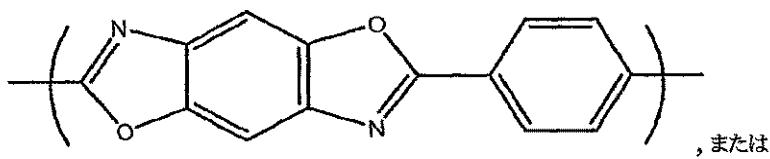
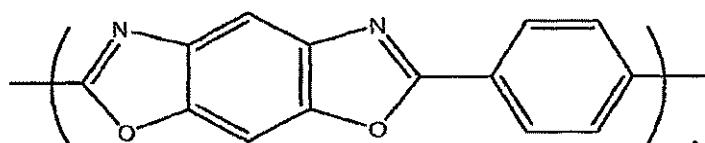
[ 15 ]

ポリピリドビスイミダゾールがポリ [ 2 , 6 - ジイミダゾ [ 4 , 5 - b : 4 , 5 - e ] - ピリジニレン - 1 , 4 ( 2 , 5 - ジヒドロキシ ) フェニレン ] である [ 10 ] に記載の耐炎性被服。

[ 16 ]

ポリベンゾビスオキサゾールポリマーが、式

【化2】



の単位を含んでなる [10] に記載の耐炎性被服。

[17]

ポリピリドビスイミダゾールおよびポリベンゾビスオキサゾール繊維が連続フィラメントとして存在する [10] に記載の耐炎性被服。

[18]

ポリピリドビスイミダゾールおよびポリベンゾビスオキサゾール繊維が連続フィラメントとして存在する [10] に記載の耐炎性被服。

[19]

20d1/gを超える固有粘度を有する 60~95 重量部のポリピリドビスイミダゾール繊維と、

5~40 重量部のポリベンゾビスオキサゾール繊維と

を含んでなる外面シェル布帛を被服に組み込むことで、内側熱ライニング、液体バリア、および外面シェル布帛を有する耐炎性被服の製造方法。

[20]

70~90 重量部のポリピリドビスイミダゾール繊維と、

10~30 重量部のポリベンゾビスオキサゾール繊維と

を有する [19] に記載の方法。

次の実施例によって本発明を例示するが、制限することは意図されない。